

LC 研究懇談会アカデミー入園者募集

LC 研究懇談会は、LC、LC/MS に関する個人の知識・情報・スキルの程度を図る指標として LC 分析士、LC/MS 分析士のそれぞれ初段から五段に至る資格授与に関する運営を担っています。このたび、これらの領域の基礎理論や応用を学ばれる学生、社会人などの方々を対象に、各人の努力と成果を可視化できる試みとして LC 研究懇談会アカデミー（LC 懇アカデミー）を設立しました。LC 懇アカデミーは、分析士に求められる素養（主として知識・情報・スキル）に加え、充実したヒューマンネットワークの構築に役立つ人間力の涵養をも指向した仕組み（学園）であり、学ばれた方々が社会で自信を持って縦横に活躍していただくために創設しました。LC 懇アカデミーには、大学院修士課程に対応する中級資格者コースと博士課程に対応する上級資格者コースがあり、いずれも入園後 2 年以内に所定の単位を取得しめでたく卒園されることを目指していただきます。入園は随時可能で、その後は丸 2 年間アカデミーで学ぶことができます。詳細については、下記各コースの案内をご覧ください。

表 1 LC 研究懇談会「アカデミー」単位及び修了に要する単位

	事業	実績	単位	中級 資格者	上級 資格者
LC 懇	例会	講師	10		10
		参加	1	4	4
		情報交換会	3		
	見学会	講師	10		
		参加	1	1	1
		情報交換会	3		
	DAY's	講師	10		
		参加	30	30	
	テクノ プラザ	講演	10		10
		参加	1	1	
		情報交換会	3		
		展示	5		
	講習会	講師	50		
		参加	30	30	
		実習補助	2		
	電子 ジャーナル	資格論文		30	50
		クイズ正解	3		
		クイズ応募	1		
分析士会	総会	講演	10		
		参加	1		
		情報交換会	3		
	見学会	講演	10		
		参加	1		1
必要単位				96	76

2024 年 12 月 5 日 原案作成（中村 洋）
2025 年 1 月 9 日 一部改訂（2024 年度第 12 回臨時 Web 運営委員会）
2025 年 1 月 24 日 2024 年第 10 回拡大運営委員会承認

LC 研究懇談会アカデミー

主催 LC 研究懇談会
共催 LC シニアクラブ

中級資格者コース

所定の年数（標準は 2 年間）で所定の単位を取得した者に、LC 中級資格者または LC/MS 中級資格者の称号を与える（表 1）。なお、履修指導・判定は LC 研究懇談会内に組織された「アカデミー単位認定委員会」が行う（表 2）。

1. 入園資格 LC 研究懇談会の個人会員で、（公社）日本分析化学会の分析士認証制度に基づく LC 分析士初段または LC/MS 分析士初段以上の段位を有する者。
2. 入園金 5,000 円。最長履修期間（2 年間）後は退園するものとする。
3. 再入園金 最長履修期間を超えて引き続き在園を希望する者は 3,000 円。ただし、在園延長期間は最長 2 年間とする。
4. 授業料 特に徴収しないが、LC 研究懇談会が主催する事業等の参加費等を免除するものではない。
5. 履修内容
 - ①必修科目：2 年間で、例会に 4 回以上、LC 研究懇談会特別講演会・見学会、LC- & LC/MS-DAYS、LC & LC/MS テクノプラザ、HPLC & LC/MS 講習会（以上は各 1 回以上）参加。
 - ②選択科目：分析士会総会・講演会、分析士会見学会など。
 - ③中級資格者論文：LC、LC/MS などの技術、方法、応用。

表 2 LC 研究懇談会・中級資格者コースアカデミー単位認定委員会

	氏名	所属
委員長	中村 洋	東京理科大学
委員	伊藤 誠治	東ソー株式会社
	井上 剛史	株式会社北浜製作所
	榎本 幹司	栗田工業株式会社
	岡橋美貴子	一般社団法人臨床検査基準測定機構
	熊谷 浩樹	LC シニアクラブ
	竹澤 正明	株式会社東レリサーチセンター
	西岡 亮太	西岡技術士事務所
	三上 博久	株式会社島津総合サービス

2024 年 12 月 5 日 原案作成（中村 洋）
2025 年 1 月 9 日 一部改訂（2024 年度第 12 回臨時 Web 運営委員会）

表 3 LC 研究懇談会・上級資格者コースアカデミー単位認定委員会

	氏名	所属
委員長	中村 洋	東京理科大学
委員	伊藤 誠治	東ソー株式会社
	熊谷 浩樹	LC シニアクラブ
	竹澤 正明	株式会社東レリサーチセンター
	西岡 亮太	西岡技術士事務所
	三上 博久	株式会社島津総合サービス

2024 年 12 月 5 日 原案作成（中村 洋）
2025 年 1 月 9 日 一部改訂（2024 年度第 12 回臨時 Web 運営委員会）

将来展望などに関する考えをまとめた論文を作成し、「LCとLC/MSの知恵」に掲載。

- ④関連分野における受賞、表彰などの特記事項を履修内容に含めることができる。
- ⑤必要な履修内容を修めた者には、2年を待たず中級資格者の称号を与えることができる。
- ⑥中級資格者の称号を授与する判断に際し、上記②および③を考慮する場合がある。

上級資格者コース

所定の年数（標準は2年間）で所定の単位を取得した者に、LC上級資格者またはLC/MS上級資格者の称号を与える（表1）。なお、履修指導・判定はLC研究懇談会に組織された「単位認定委員会」が行う（表3）。

1. 入園資格 LC中級資格者またはLC/MS中級資格者である者。
2. 入園金 5,000円。最長履修期間（2年間）後は退園するものとする。
3. 再入園金 最長履修期間を超えて引き続き在園を希望する者は3,000円。ただし、在園延長期間は最長2年間とする。
4. 授業料 特に徴収しないが、LC研究懇談会が主催する事業等の参加費等を免除するものではない。
5. 履修内容
 - ①必修科目：2年間で、例会、LC & LC/MSテクノプラザでそれぞれ1回以上発表し、LC研究懇談会特別講演会・見学会、分析士会見学会にそれぞれ1回以上参加し、例会に4回以上参加。
 - ②上級資格者論文：LC、LC/MSなどの技術、方法、応用、将来展望などに関する考えをまとめて論文を作成し、「LCとLC/MSの知恵」に掲載。
 - ③関連分野における受賞、表彰などの特記事項を履修内容に含めることができる。
 - ④必要な履修内容を修めた者には、2年を待たず上級資格者の称号を与えることができる。

付記

- 2024年12月5日 原案作成（中村 洋）
- 2025年1月9日 一部改訂（2024年度第12回臨時Web運営委員会）
- 2025年1月24日 2024年度第10回拡大運営委員会承認

入園申込方法

1. 入園希望者は、下記申込先にアクセスし、メールアドレス、氏名、勤務先（電話番号）、LC研究懇談会・個人会員番号、LC分析士・LC/MS分析士の段位・登録番号、領収書宛先、を明記のうえ、お申込みください。
2. お申込みが完了した場合には、登録されたアドレス欄に「LC研究懇談会アカデミー入園申込み受付（自動返信）」のメールが届きます。メールが届かない場合は、連絡先までお問い合わせください。
3. 申込み受付のメールを受領後、1週間以内に入園金5,000円の銀行振り込みを行ってください。期限内に納入が確認できない場合、お申込みを無効とします。なお、いったん納入された入園金は、返金いたしません。

申込先 <https://forms.gle/V3x2GcKkU34WoqJ7>

銀行送金先 リソナ銀行五反田支店（普通）0802349、口座名義：シヤ）ニホンブンセンキカガクカイ〔（公社）日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会〕

連絡先 〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2 五反田サンハイツ304号（公社）日本分析化学会・LC研究懇談会 運営委員長 中村 洋〔E-mail：nakamura@jsac.or.jp〕

第407回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催 （公社）日本分析化学会・液体クロマトグラフィー（LC）研究懇談会

後援 （公社）日本薬学会（申請中）、（公社）日本化学会、（公社）日本農芸化学会、（公社）日本分析化学会

現在、国内では、環境省が2026年4月の施行を目指し、PFOS、PFOAを水道水質基準項目の対象とする方針が公表されています。一方、欧州など、世界を見渡すと、PFOS、PFOAのみならず、多成分のPFASに対する規制に向けた動きが見られており、PFAS分析の要素技術である、固相抽出、HPLC、LC/MSへの関心も高まっています。本例会では、これらの要素技術を用いたPFAS分析の最新情報に関する、各社の最新の取り組みや分析におけるポイントなどについてご講演いただきます。

期日 2025年5月22日（木）13:00～17:00

会場 栗田工業(株)/Kurita Innovation Hub 講堂A〔東京都昭島市代官山1-4-1、交通：JR「昭島」駅より徒歩7分〕

https://www.kurita-water.com/assets/files/pdf/accessmap_jp.pdf

講演主題 PFAS分析におけるポイント

講演

講演主題概説（オーガナイザー）（13:00～13:05）
（栗田工業(株)）榎本幹司

1. PFAS分析のための試料前処理とブランク対策（13:05～13:35）
（ジエールサイエンス(株)）坂井拓斗（LC分析士初段）
2. PFASの前処理（13:35～14:05）
（日本ウォーターズ(株)）磯俣 亮（LC分析士初段）
3. 新規注入法を用いた食品及び河川水PFAS一斉分析法の紹介（14:05～14:35）
（アジレント・テクノロジー(株)）滝楚昌彦（LC/MS分析士二段）
4. PFAS分析ソリューションの紹介（14:35～15:05）
（(株)島津製作所）青野佑亮（LC/MS分析士初段取得見込み）

休憩（15:05～15:20）

5. PFAS分析における分析用水の最適化（15:20～15:45）
（メルク(株)）石井直恵（LC分析士二段）
6. 飲料水・食品中PFAS分析の課題を突破する実践的アプローチ（15:45～16:15）
（（一財）日本食品検査）橘田 規（LC分析士三段、LC/MS分析士四段）
7. PFAS対策に求められる分析技術（16:15～16:40）
（栗田工業(株)）榎本幹司（LC分析士三段、LC/MS分析士三段）
8. 総括「PFAS分析におけるポイント」（16:40～17:10）
（東京理科大学）中村 洋（LCマイスター、LC/MSマイスター）

参加費 ①学生：1,000円、②LC懇・個人会員：2,000円、③LC懇・団体会員：3,000円、④後援学会・個人会員：4,000円、⑤後援学会・団体会員：4,500円、⑥その他：5,000円。参加申込締切後の受付はできませんので、ご了承ください。

情報交換会 終了後、講師を囲んで情報交換会を開催します（会費5,000円）。参加申込締切後のご参加はできませんので、ご了承ください。

申込締切日 2025年5月15日（木）入金締切時刻：15時まで

申込方法

1. 参加希望者は、下記申込先にアクセスし、氏名、勤務先

お知らせ

(電話番号)、LC 研究懇談会・個人会員、協賛学会・個人会員、その他の別および情報交換会参加の有無を明記のうえ、お申込みください。なお、参加者名と振込者名が違う場合は、参加申込書の連絡事項欄に振込者名を明記してください。

2. お申込みが完了した場合には、登録されたアドレス欄に「第 407 液体クロマトグラフィー研究懇談会申込み受付(自動返信)」のメールが届きます。メールが届かない場合は、①入力したご自分のアドレスに間違いがないか、②迷惑メールフォルダーをご確認のうえ、世話人までお問い合わせください。
3. 申込み受付のメールを受領後、必ず期限内に研究懇談会参加費、情報交換会費の納入を行ってください。期限内に納入が確認できない場合、お申込みを無効とし参加 URL を発行しませんので、十分ご注意ください。当日払いは受け付けません。なお、いったん納入された参加費は、返金いたしません。
4. 参加費の納入が確認できた方には、2025 年 5 月 15 日以降に要旨集をメールにてお送りいたします。必要に応じてプリントアウトしてご参加ください。また、請求書の発行はいたしておりません。

液体クロマトグラフィー研究懇談会(例会)参加費送金時のご注意

例会参加費、情報交換会費を送金される場合、下記を禁止しておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

1. 複数例会の参加費の同時振込
(→例会ごとに振り込んでください)
2. 複数参加者の参加費の同時振込
(→参加者ごとに振り込んでください)
3. 年会費や他の費用との合算振込
(→費目ごとに振り込んでください)

申込先 <https://forms.gle/DrJNNkD3r5A3e7r7>

(学生申込者は、所属欄に大学名、学部、学年を記載)

銀行送金先 リそな銀行五反田支店(普通)1754341、口座名義：シヤ)ニホンブンセンキカガクカイ〔公益社団法人日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会〕

問合先 (公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会 世話人 栗田工業(株) 榎本幹司
[E-mail : k.enomoto15@kurita-water.com]

2025 年度 LC/MS 分析士 五段認証試験実施のお知らせ

下記要領で実施する予定ですので、お知らせいたします。

日時 2025 年 7 月 10 日(木) 14 時～15 時 30 分

会場 日本分析化学会会議室〔東京都品川区西五反田 1-26-2 五反田サンハイツ 303 号室〕

五段資格のイメージ 「分析士を育成・指導できるレベル(師範)。論文の査読・指導、学位論文の審査、国際会議において存在価値が評価される質疑応答ができる。」

分析士五段認証試験 分析士五段試験では書類選考試験(事前提出)、筆記試験(記述式)および面接試験を総合して合格を決定します。書類選考用資料(体裁は自由)には、①氏名、②生年月日、③現職、④学歴、⑤職歴、⑥ LC/MS に関する研究・業務経験、⑦論文発表(適当数)、⑧学位の有無、⑨講習会・講演会における講師等の実績、⑩論文査読の経験、⑪学位論文審査の経験、⑫組織委員・実行委員等の実績、⑬国際会議における座長・依頼講演等の実績、⑭ LC/MS 分析士四段の登録番号、⑮その他、特記事項、をこの順に記載して 1 ファイルとし、申込締切日までに下記資料送付先にお送りください(お送りいただいた資料は本認証試験

以外の目的には使用しません)。筆記試験には、与えられた課題に対してご自身の考えを問う問題、が出題され 45 分以内に解答していただきます。面接試験は筆記試験後に 30 分程度行います。

受験料 11,000 円(合格者は登録料 7,700 円を別途申し受けま

す)
受験資格 受験できる方はこれまでに行われた LC/MS 分析士四段試験に合格、登録された方に限ります。

申込方法 ①受験料を銀行振込後、資料送付先に書類選考用資料をメールに添付して提出ください。

申込締切 6 月 30 日(月)

振込銀行口座 リそな銀行五反田支店 普通預金 0802349、名義：(公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会。なお、一度振込いただいた受験料は返却しません。試験が中止された場合は、次の受験料を免除します。

資料送付先・問合先 (公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会・分析士認証試験係
[E-mail : nakamura@jsac.or.jp]

2025 年度 LC/MS 分析士 四段認証試験実施のお知らせ

下記要領で実施する予定ですので、お知らせいたします。

日時 2025 年 7 月 17 日(木) 14 時～15 時 30 分

会場 日本分析化学会会議室〔東京都品川区西五反田 1-26-2 五反田サンハイツ 303 号室〕

四段資格のイメージ 「学会発表、投稿を通して、技術的議論が行え、講習会の講師が務まるレベル。また、当該分析・測定技術に関する英語の文献を適切に理解し、博士の学位に相当する学識経験を有する。」

分析士四段認証試験 分析士四段試験では書類選考試験(事前提出)と筆記試験(記述式)とを総合して合格を決定します。書類選考用資料には、①氏名、②生年月日、③現職、④学歴、⑤職歴、⑥ LC/MS に関する研究・業務経験、⑦論文発表(適当数)、⑧口頭発表(適当数)、⑨学位の有無、⑩ LC/MS 分析士三段の登録番号、その他、特記事項、をこの順に記載して 1 ファイルとし、申込締切日までに下記資料送付先にお送りください(お送りいただいた資料は本認証試験以外の目的には使用しません)。筆記試験には、1) 英文和訳問題、2) 与えられた課題に対してご自身の考えを問う問題、の 2 題が出題され 90 分以内に解答していただきます。

受験料 9,900 円(合格者は登録料 6,600 円を別途申し受けま

す)
受験資格 受験できる方はこれまでに行われた LC/MS 分析士三段試験に合格し、登録された方に限ります。

申込方法 ①受験料を銀行振込後、資料送付先に書類選考用資料をメールに添付して提出ください。

申込締切 7 月 7 日(月)

振込銀行口座 リそな銀行五反田支店 普通預金 0802349、名義：(公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会。なお、一度振込いただいた受験料は返却しません。試験が中止された場合は、次の受験料を免除します。

資料送付先・問合先 (公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会・分析士認証試験係
[E-mail : nakamura@jsac.or.jp]

HPLC & LC/MS 講習会 2025

主催 (公社)日本分析化学会・LC 研究懇談会
 後援 (公社)日本薬学会 (申請中), (公社)日本化学会, (公社)日本分析化学会 LC シニアクラブ
 協賛 アジレント・テクノロジー(株), 関東化学(株), ジーエルサイエンス(株), (株)島津製作所, (株)東レリサーチセンター, 東ソー(株), 日本分光(株), (株)日立ハイテクサイエンス

HPLC, LC/MS の初心者・中級者を対象とし, 基礎から最新のトレンドまでを講義と実習で学びます。規定の講習を終えた方には, 受講証を差し上げます。また, 希望者には実力判定試験を受験する機会が付与され (無料), 合格者には 2025 年度 LC 分析士初段または LC/MS 分析士初段認証試験の筆記試験が免除される特典があります。

開催日 2025 年 7 月 30 日 (水)~8 月 1 日 (金)

会場 講義, 総合討論:(株)島津製作所殿町事業所 Main Hall (4 階)〔神奈川県川崎市川崎区殿町 3-25-40, 交通:①京急大師線「小島新田」駅より徒歩 12 分, ②京浜急行電鉄・東京モノレール「天空橋」駅よりバス/タクシー 10 分, バス:大 109 大師橋駅前行「殿町三丁目」下車, ③JR「川崎」駅よりタクシー約 20 分〕

<https://www.shimadzu.co.jp/aboutus/company/access/tonomachi.html>

実習, 実力判定試験:川崎生命科学・環境研究センター (LiSE) 大会議室 (1 階)〔講義会場より徒歩 5 分〕

<https://kawasaki-lise.jp/>

昼食, 情報交換会:LiSE 1 階あんでろーぷ (フォルテ)

講習プログラム

1 日目 (講義と情報交換会)

9.00~ 9.15 ガイダンス

(オーガナイザー) 中村 洋

9.15~ 9.45 講義 1 概論

(東京理科大学) 中村 洋

9.45~10.35 講義 2 試薬・有機溶媒・水

(関東化学(株)) 坂本和則

10.35~11.25 講義 3 前処理

((一社)臨床検査基準測定機構) 岡橋美貴子

11.25~12.25 昼休み

12.30~13.30 講義 4 分離

(東ソー(株)) 伊藤誠治

13.30~14.30 講義 5 検出

(株)島津総合サービス・リサーチセンター) 三上博久

14.30~14.45 休憩

14.45~15.45 講義 6 LC/MS

(株)東レリサーチセンター) 竹澤正明

15.45~16.45 講義 7 トラブル解決法

(LC シニアクラブ) 熊谷浩樹

17.00~19.00 情報交換会

2 日目・3 日目 (実習, 実力判定試験, 総合討論)

9.00~14.50 4 班に分かれ, 以下の 4 種類の実習 (各 140 分) を 2 日間で受講します。

実習 A-1 検出器の使い方: フォトダイオードアレイ検出器 (株)島津製作所)

実習講師: 寺田英敏, 実習補助員: 向井美樹

フォトダイオードアレイ検出器 (PDA 検出器) を用いると, 一度の分析で UV スペクトル情報を取り込むことができます。したがって, 通常的时间-吸光度の二次元データに加えて波長軸を含む三次元データを取り扱うことができ, 分析後にさまざまな解析が可能となります。本実習では, 着色料 (食品添加物) の分析を例にとり, フォトダイ

オードアレイ検出器の基本操作と機能 (ピーク純度の検定, スペクトルによるピーク同定など) について, 実際の分析データを基にして学んでいただきます。また, PDA 検出器の能力をさらに高める最新のピーク解析技術についてもご紹介します。

実習 A-2 検出器の使い方: 蛍光検出器 (日本分光(株))

実習講師: 佐藤泰世, 実習補助員: 中村朱里

蛍光物質を高感度かつ選択的に検出する蛍光検出器は, HPLC における微量成分の高感度検出や蛍光誘導体化した成分の測定等に多く使用されています。実習では, 検出器の光学系やセルの実物をご覧いただくだけでなく, 実際にフローインジェクション分析法による自然蛍光物質のスペクトル測定を行っていただきます。その他, 蛍光検出器の原理と特徴, 励起・蛍光波長の設定, 誘導体化法, 測定時における留意点等について学んでいただきます。

実習 B カラム分離とデータ解析 ((株)日立ハイテクサイエンス)

実習講師: 清水克敏, 実習補助員: 宮野桃子

使用頻度が高い逆相系のカラムを用い, 目的成分が分離する移動相条件を検討します。

移動相条件が分離・保持時間に影響を与えること, 最適条件を設定するためのポイントを学びます。取得したクロマトグラムを使用し, ベースライン補正方法と定量の実際, カラムの性能評価を実習していただきます。

実習 C 固相抽出~原理と基礎操作 (ジーエルサイエンス(株))

実習講師: 太田茂徳

LC/MS/MS など分析装置の感度と選択性の向上が目覚ましい今日においても信頼性の高い分析を行うためにはサンプル前処理が必要な場合が少なくありません。特に医薬品バイオアナリシス, 食品分析, 環境分析など複雑なサンプルマトリクス中の微量成分を分析する場合はサンプル前処理が成功の鍵となります。本実習では幅広く使用されている固相抽出について色素サンプルを使用し受講者全員に前処理を体験していただきます。また, カラムスイッチング技術を使用したオンライン固相抽出法についても紹介します。

実習 D LC/MS の使い方 (アジレント・テクノロジー(株))

実習講師: 滝埜昌彦, 実習補助員: 城代 航

タンデム四重極質量分析計を用いた LC/MS/MS システムは, 通常のマススペクトルの測定に加え, プロダクトイオンスペクトルやプリカーサーイオンスペクトルの測定が可能です。近年では, 特に SRM モードを用いた選択性の高い高感度分析が可能であり, さまざまな試料中の微量成分の定量分析に使用されています。本実習では, 合成抗菌剤の一斉分析を例にとり, 測定条件の最適化方法, SRM 法を用いた定量分析法について学んでいただきます。

なお, 有機溶媒等を使用しますので, 安全めがねを各自お持ちください。実習用の白衣はなくても結構です。実習 B では, 計算機 (またはスマホ等) を使用しますので, 各自ご持参ください。また, 実習にあたっては十分な安全対策を講じておりますが, 講習会への行き帰りおよび講習・実習中の事故等については, 免責とさせていただきます。必要と思われる方はご自身での保険加入をお願いいたします。

2 日目 15.15~15.45 実力判定試験 (無料・マークシート方式。希望者のみ, LC コースまたは LC/MS コースのいずれかを受験)

お知らせ

受験希望者は B2～B6 の黒鉛筆と消しゴムを持参ください。実力判定試験の合格者は、LC 分析士初段または LC/MS 分析士初段認証試験合格者と同等の実力を有するとみなされます。後日、初段試験の受験料と登録費を支払われた方には、当該資格の登録証が送付されます。

3 日目 15.10～16.10 総合討論
16.15～16.30 受講証授与

日程	2 日目午前	2 日目午後	3 日目午前	3 日目午後
時間	9.00～11.20	12.30～14.50	9.00～11.20	12.30～14.50
実習 A	1 班	4 班	3 班	2 班
実習 B	2 班	1 班	4 班	3 班
実習 C	3 班	2 班	1 班	4 班
実習 D	4 班	3 班	2 班	1 班

募集定員 50 名

参加費用 40,000 円 (LC 研究懇談会・個人会員)、45,000 円 (LC 研究懇談会・団体会員)、50,000 円 (後援学会・個人会員)、55,000 円 (後援学会・団体会員)、60,000 円 (その他)

参加方法 LC 研究懇談会のホームページなどから、以下の URL にお申し込みください。

<https://forms.gle/hK4h3EN3sZpkjGht8>

参加申込・振込期日 7 月 14 日 (月) (15 時)

参加費振込先 りそな銀行五反田支店、普通口座、口座番号：0802349

(公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会
コウシャ ニホンブンセキカガクカイエキタイクロマトグラフィーケンキュウコンダンカイ

連絡先 ご質問・総合討論で議論したい事柄などがあれば、あらかじめ下記へお知らせください。

LC 研究懇談会 [E-mail: nakamura@jsac.or.jp]

2025 年度 LC/MS 分析士 三段認証試験実施のお知らせ

標記につき、下記要領で実施する予定ですので、お知らせいたします。

日時 2025 年 8 月 22 日 (金) 14 時～16 時

会場 五反田文化会館〔東京都品川区西五反田 1-32-2、交通：JR・都営地下鉄「五反田」駅より徒歩 3 分〕

<http://www.gotandabunkakaikan.com/contact.html>

三段資格のイメージ 各種分析士に共通するものとして、「新しい分析法を開発し、その妥当性確認 (Method validation) を計画し、実施できるレベル。当該分析・測定技術に関連する学術的知識に詳しく、経験が深い。」と規程されます。LC/MS 分析士においては「LC/MS を用いた試験に関連する前処理に関する知識が十分である。与えられた公定法や論文を正確に読みこなし、自らその試験を行うか SOP を作成することができる。」ことが求められます。なお、試験問題としては科学ならびに分析化学一般に関する知識を問う内容が約 30% 含まれます。

受験料 8,800 円 (合格者は登録料 5,500 円を別途申し受けます)。入金確認後、受験番号をお知らせします。

受験資格 受験できる方はこれまでに行われた LC/MS 分析士二段試験に合格し、登録された方に限ります。

申込方法 受験料の銀行振込後、専用ホームページ (<https://forms.gle/iHgWVxAhEBt9WLpS7>) にアクセスして必要事項を入力してください。

申込締切 8 月 12 日 (火)

振込銀行口座 りそな銀行五反田支店普通預金 0802349、口座

名義：公益社団法人日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会〔シヤ)ニホンブンセキカガクカイエキタイクロマトグラフィー〕。一度お振り込みいただいた受験料は返却しません。万一、コロナ禍等で試験が中止された場合には、次の受験料を免除します。

問合せ先 (公社)日本分析化学会・LC 研究懇談会・分析士認証専門部会 [E-mail: nakamura@jsac.or.jp]

令和 7 年度化学系学協会東北大会

主催 (公社)日本化学会東北支部

共催 (公社)高分子学会東北支部、(公社)日本分析化学会東北支部、(公社)化学工学会東北支部、(公社)有機合成化学協会東北支部、(公社)電気化学会東北支部、(公社)日本材料学会東北支部、(一社)繊維学会東北北海道支部、無機マテリアル学会北部支部、分子科学会東北地区、(公社)日本セラミックス協会東北北海道支部、(一社)日本接着学会東北・北海道支部、高等学校文化連盟全国自然科学専門部、山形大学 (いずれも予定)

会期 2025 年 9 月 6 日 (土)・7 日 (日)

会場 対面開催：山形大学米沢キャンパス〔山形県米沢市城南 4-3-16、交通：1. JR「米沢」駅から市街地循環バス右回り「山大正門」下車約 15 分、2. JR「米沢」駅からタクシー約 10 分、3. JR「南米沢」駅より徒歩約 5 分〕

※駐車スペースが限られていますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

<https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/access/#yone>

講演

- 一般講演：ポスター発表
 - 特別講演：日本化学会東北支部の推薦によるテーマで 3 件
 - 招待講演：各学協会からの推薦による現在脚光を浴びているテーマ
 - 依頼講演：各学協会からの推薦による研究者講演
 - 特別企画：化学教育研究協議会東北大会、有機化学コロキウム、物理化学コロキウム、高分子コロキウム、他
- ※口頭発表は講演者持参のコンピュータによりプロジェクトを利用

発表申込開始 4 月上旬 (予定)

参加登録申込開始 4 月上旬 (予定)

発表申込締切 7 月 31 日 (木)

発表予稿原稿締切 7 月 31 日 (木) ※高校生のみのみ 8 月 25 日 (月)

事前参加登録申込締切 8 月 15 日 (金)

発表申込方法 日本化学会東北支部ホームページ (<https://tohoku.chemistry.or.jp/>) にて案内 (4 月上旬頃公開予定)

参加登録費

(事前登録) 一般：4,000 円、教育会員・大学院生：2,000 円、小・中・高教員、高校生、高専生、学部生：無料 (いずれも予稿集代を含む)

(当日登録) 一般：5,000 円、教育会員・大学院生：3,000 円、小・中・高教員、高校生、高専生、学部生：無料 (いずれも予稿集代を含む)

懇親会 9 月 6 日 (土) 18 時より、会場未定

会費：事前登録：一般 8,000 円、学生 5,000 円

当日登録：一般 9,000 円、学生 6,000 円

事前参加登録申込方法 日本化学会東北支部ホームページ (<https://tohoku.chemistry.or.jp/>) にて案内 (4 月上旬頃公開予定)

問合せ 〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
東北大学理学部化学科内 (公社)日本化学会東北支部事務局
(担当: 千葉依巳, 熊谷沙緒理) [電話・FAX: 022-224-3883, E-mail: nikka.tohoku@chemistry.or.jp]

<https://tohoku.chemistry.or.jp/>
変更などの詳細は, 日本化学会東北支部ホームページ (<https://tohoku.chemistry.or.jp/>) にてご確認ください。

第30回高分子分析討論会 (高分子の分析及びキャラクタリゼーション) —研究発表募集—

主催 (公社)日本分析化学会高分子分析研究懇談会
高分子分析・特性解析全般に関する討論です。高分子分析は物性発現機構を解明し, 構造設計の指針を得る基盤であり, その重要な認識は高まっています。高分子分析・キャラクタリゼーションを対象とした本討論会の内容は, 化学的手法, 分光学的手法, 各種クロマトグラフ法, 熱分析法などによる組成, 分子構造, 高次構造, 構造と物性の相関, 物性発現機構, 重合機構等の解析に関する基本原理, 手法開発, 解析実例などに及びます。

期日 2025年11月19日(水) 20日(木)

会場 明治大学駿河台校舎 [東京都千代田区神田駿河台1-1, 交通: JR「御茶ノ水」駅より徒歩約3分]

https://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/access.html

発表形式 討論を重視するため, 発表はすべてポスター発表のみとし, これに先立って2分半の口頭による概要説明を行います(概要説明の時間は都合により変更する場合があります)。このほかに特別講演を予定しています。優秀なポスターへの表彰を予定しております。第30回は節目の年でもあります。イベントの企画も用意しております。

研究発表会申込方法

1. 発表内容には既発表のものを含んでいても構いません。また, 新しい試みであれば, 研究途中のものでも差し支えありません。
2. 高分子分析研究懇談会ホームページからお申し込みください。ホームページからの申し込みができない場合には, 下記に問い合わせてください。
3. 講演要旨執筆要領はホームページに掲載します。
4. ポスター発表のプログラム編成は実行委員会に一任願います。

発表申込締切 7月11日(金)

発表要旨締切 9月5日(金)

研究発表申込先 高分子分析研究懇談会ホームページ (<https://pacd.jp/>)

その他 発表者は第30回高分子分析討論会の参加登録もお願いいたします。

参加費

予約登録(10月28日締切) 一般: 10,000円, 学生: 2,000円
当日登録(10月29日以降) 一般: 14,000円, 学生: 3,000円
問合せ 〒251-0053 神奈川県藤沢市本町1-12-19 (株)バイオクロマト開発部 島田治男 [電話: 0466-23-8382 (呼), E-mail: pacd-touron@pacd.jp]

—以下の各件は本会が共催・協賛・後援等をする行事です—

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

第255・256回西山記念技術講座

「製鉄所における資源循環と廃熱利用」

主催 (一社)日本鉄鋼協会

期日 第255回: 2025年5月23日(金)(大阪/対面開催), 第256回: 2025年6月4日(水)(東京/ハイブリッド開催)

会場 第255回: CIVI研修センター新大阪東7階E705会議室, 第256回: 鉄鋼会館会議室

ホームページ

<https://www.isij.or.jp/event/index.html>

連絡先 (一社)日本鉄鋼協会 育成グループ

[電話: 03-3669-5933, E-mail: educact@isij.or.jp]

プラズマ分光分析研究会第125回講演会

次世代の分析に向けた新しい分光分析の展開

主催 プラズマ分光分析研究会

期日 2025年5月30日(金)

会場 松山市総合コミュニティセンター 大会議室

ホームページ

<https://plasma-dg.jp/seminar/125/program125.html>

連絡先 〒192-0392 東京都八王子市堀之内1432-1 東京薬科大学生命科学部 分子生命科学科生命分析化学研究室内プラズマ分光分析研究会事務局 大関杏子

[電話: 042-816-3001, E-mail: ozeki@plasma.es.titech.ac.jp]

第22回次世代を担う若手のための フィジカル・ファーマフォーラム PPF2025

主催 日本薬学会物理系薬学部会

期日 2025年8月21日(木)・22日(金)

会場 北九州市国際会議場

ホームページ

<https://sites.google.com/fukuoka-u.ac.jp/ppf2025/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0?authuser=0>

連絡先 〒814-0180 福岡県福岡市城南区七隈8-19-1 福岡大学薬学部 臨床分析科学研究室 巴山 忠 [電話: 092-871-6631 (内線 6635), E-mail: ppf2025@fukuoka-u.ac.jp]

第257・258回西山記念技術講座

「カーボンニュートラル社会実現のための

エネルギー材料における科学基盤と開発最前線」

主催 (一社)日本鉄鋼協会

期日 第257回: 2025年10月27日(月)(大阪/対面開催), 第258回: 2025年11月17日(月)(東京/ハイブリッド開催)

会場 第257回: CIVI研修センター新大阪東7階E705会議室, 第258回: 鉄鋼会館会議室

ホームページ

<https://www.isij.or.jp/event/index.html>

連絡先 (一社)日本鉄鋼協会 育成グループ〔電話：03-3669-5933, E-mail: educact@isij.or.jp〕

「分析化学」 年間特集「環」論文募集

「分析化学」編集委員会

2025 年は「環」をテーマとすることと致しました。

本特集では「環」をキーワードとして、基礎・応用を含めた分析化学の“最新の知見”はもちろん、総合論文や分析化学総説といった形で現在の分析化学の“研究の背景”についても広く募集し、分析化学が担う役割を社会に向けて発信することを目的としています。国内外、産学官を問わず、「環」にかかわる分析化学の研究・開発に従事されている多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりますので、是非この機会をご活用ください。なお、詳細は「分析化学」誌の 12 号及びホームページをご参照ください。

特集論文原稿締切：2025 年 4 月 25 日（金）（第 3 期）

ぶんせき誌「技術紹介」の原稿募集

『ぶんせき』編集委員会

分析化学は種々の分野における基盤技術であり、科学や産業の発達・発展だけでなく、安全で豊かな生活の実現に分析機器が大きく貢献してきました。近年の分析機器の高性能化・高度化は目覚ましく、知識や経験がなくても、微量物質の量や特性を測定できるようになりました。この急速な発展は、各企業が持つ高度で多彩な技術やノウハウによって達成されたといっても過言ではありません。一方、高度化された分析機器の性能・機能を十分に発揮させるためには、既存の手法に代わる新規な分析手法が必要であり、高度な分析機器に適合した分析手法や前処理手法の開発が分析者にとって新たな課題となっています。また、分析目的に合致した高純度試薬の開発に加えて、測定環境の整備、試薬や水の取り扱いなどにも十分な配慮が必要です。極微量の試料を分析する際には、測定原理を把握すると共に、手法や操作に関する知識・技能を身に着ける必要があると考えます。

このような背景に鑑み、『ぶんせき』誌では新たな記事として「技術紹介」を企画いたしました。分析機器の特徴や性能、機器開発に関わる技術、そしてその応用例などを紹介・周知することが分析機器の適正な活用、さらなる普及に繋がると考えており、これらに関する企業技術を論じた記事を掲載することといたしました。また、分析機器や分析手法の利用・応用における注意事項、前処理や操作上のコツなども盛り込んだ紹介記事を歓迎いたします。これらの記事を技術紹介集として、『ぶんせき』誌ホームページ内に蓄積することで、様々な分野における研究者や技術者に有用な情報を発信でき、分析化学の発展に貢献できるものと期待しております。分析機器や分析手法の開発・応用に従事されている多くの皆様方からのご投稿をお待ちしております。

記

1. 記事の題目：「技術紹介」
2. 対象：以下のような分析機器、分析手法に関する紹介・解説記事
 - 1) 分析機器の特徴や性能および機器開発に関わる技術、
 - 2) 分析手法の特徴および手法開発に関わる技術、
 - 3) 分析機器および分析手法の応用例、
 - 4) 分析に必要なとなる試薬や水および雰囲気などに関する情報・解説、
 - 5) 前処理や

試料の取扱い等に関する情報・解説・注意事項、6) その他、分析機器の性能を十分に引き出すために有用な情報など

3. 新規性：本記事の内容に関しては、新規性は一切問いません。新規の装置や技術である必要はなく、既存の装置や技術に関わるもので構いません。また、社会的要求が高いテーマや関連技術については、データや知見の追加などにより繰り返し紹介していただいても構いません。
4. お問い合わせ先：日本分析化学会『ぶんせき』編集委員会〔E-mail: bunseki@jsac.or.jp〕

『ぶんせき』再録集 vol. 1～3 出版のお知らせ

ぶんせき誌の過去記事の有効利用の一環として、記事をまとめて書籍化するという試みを行っています。2021 年 5 月 10 日に、『ぶんせき』再録集 vol. 1 が出版されました。この巻には、2011 年から 2020 年まで、10 年間分の〈ミニファイル〉の記事が詰まっています。たっぷり 256 ページ、2,750 円（税込み）のお値打ち本です。多岐にわたる『知って得する分析化学の豆知識』を堪能できます。本書は下記 10 章からなり、それぞれに 12 から 14 の話題が集められています。

1. 実験器具に用いられる素材の特徴
2. 分析がかかわる資格
3. 顕微鏡と画像データ処理
4. 最新の web 文献検索データベース
5. ポータブル型分析装置
6. 分析化学と材料物性
7. 分析化学者のための多変量解析入門
8. 土壌分析
9. サンプリング
10. 前処理に必要な器具や装置の正しい使用方法

過去のミニファイルをファイリングしておきたいときに、初学者への参考書をお探しのときに、また、非学会員の方に分析化学会のアピールをしたいときに、ぜひご活用ください。本書はアマゾンオンデマンド出版サービスを利用して出版した書籍ですので、書店には並びません。アマゾンサイトからのネット注文のみとなりますので、ご注意ください。ネットで「ぶんせき再録集」と入力して検索しても、すぐに出てきます。詳しくは「ぶんせき」誌ホームページをご確認ください。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆

日本分析化学会の機関月刊誌『ぶんせき』の再録集 vol. 2 が出版されました！初学者必見！正しく分析するための 241 ページです。

本書は書籍化の第二弾として、「入門講座」から分析試料の取り扱いや前処理に関する記事、合計 36 本を再録しました。

『ぶんせき』では、分析化学の初学者から専門家まで幅広い会員に向けて、多くの有用な情報を提供し続けています。これまで掲載された記事には、分析化学諸分野の入門的な概説や分析操作の基礎といった、いつの時代でも必要となる手ほどきや現役の研究者・技術者の実体験など、分析のノウハウが詰まっています。

本書は下記の二章だてとなっています。

- 〈1 章 分析における試料前処理の基礎知識〉
 1. 土壌中重金属分析のための前処理法
 2. 岩石試料の分析のための前処理法
 3. プラスチック試料の分析のための前処理法
 4. 金属試料分析のための前処理
 5. 分析試料としての水産生物の特徴と取り扱い
 6. 食品分析のための前処理法
 7. Dried blood spot 法による血液試料の前処理

8. 生体試料のための前処理法（液－液抽出）
 9. 生体試料のための前処理法（固相抽出）
 10. 環境水試料の分析のための前処理法
 11. 大気中揮発性有機化合物分析のための前処理
 12. 放射性核種分析のための前処理法
 13. 脂質分析のための前処理法
 14. 糖鎖分析のための試料前処理
 15. イムノアッセイのための前処理法
 16. 加速器質量分析における超高感度核種分析のための試料前処理法
 17. 生元素安定同位体比分析のための試料前処理法
 18. セラミックス試料分析のための前処理法
- 〈2章 分析試料の正しい取り扱い〉
1. 生体（血液）
 2. 生体（毛髪）
 3. 金属（非鉄金属）
 4. 金属（鉄鋼）
 5. 食品（酒類）
 6. 医薬品（原薬・中間体・原料）
 7. 海水（微量金属）
 8. 考古資料
 9. 海底下の試料（地球深部の堆積物および岩石）
 10. 岩石
 11. 食品（農産物の残留農薬）
 12. ガラス
 13. 環境（陸水）
 14. 温泉付随ガス
 15. 透過電子顕微鏡観察の試料調整
 16. 環境（ダイオキシン類）
 17. 高分子材料
 18. 沈降粒子

なお、『ぶんせき』掲載時から数年が経過しているため、記事の中には執筆者の所属も含め、部分的に現在の状況とは異なる内容を含むものがあるかもしれません。本書では、各記事の『ぶんせき』掲載年を明記することで、再録にともなう本文改稿を割愛しました。これらの点については、執筆者および読者の方々にご了承いただきたく、お願い申し上げます。

本シリーズが化学分析の虎の巻として多くの方に活用されることを願ってやみません。



日本分析化学会の機関月刊誌『ぶんせき』の再録集 vol. 3 が出版されました！ 初学者必見！ 質量分析・同位体分析の基礎が詰まった 293 ページです。

本書は書籍化の第三弾として、「入門講座」から、質量分析・同位体分析の基礎となる記事、合計 42 本を再録しました。

『ぶんせき』では、分析化学の初学者から専門家まで幅広い会員に向けて、多くの有用な情報を提供し続けています。これまで掲載された記事には、分析化学諸分野の入門的な概説や分析操作の基礎といった、いつの時代でも必要となる手ほどきや現役の研究者・技術者の実体験など、分析のノウハウが詰まっています。

〈2003 年掲載 1 章 質量分析の基礎知識〉

1. 総論
2. 装置
3. 無機物質のイオン化法
4. 有機化合物のイオン化法
5. ハイフェネーテッド質量分析 I
6. タンデムマススペクトロメトリー
7. 無機材料の質量分析
8. 生体高分子の質量分析
9. 医学、薬学分野における質量分析法
10. 食品分野における質量分析法

11. 薬毒物検査、鑑識分野における質量分析法
 12. 環境化学分野における質量分析法
- 〈2009 年掲載 2 章 質量分析装置のためのイオン化法〉

1. 総論
2. GC/MS のためのイオン化法
3. エレクトロスプレーイオン化—原理編—
4. エレクトロスプレーイオン化—応用編—
5. 大気圧化学イオン化
6. 大気圧光イオン化
7. レーザー脱離イオン化
8. イオン付着質量分析
9. リアルタイム直接質量分析
10. 誘導結合プラズマによるイオン化
11. スタティック SIMS
12. 次世代を担う新たなイオン化法

〈2002 年掲載 3 章 同位体比分析〉

1. 同位体比の定義と標準
2. 同位体比測定の精度と確度
3. 同位体比を測るための前処理法
4. 同位体比を測るための分析法
5. 生元素の同位体比と環境化学
6. 重元素の同位体比

〈2016 年掲載 4 章 精密同位体分析〉

1. 同位体分析の基本原理
2. 表面電離型質量分析計の原理
3. 表面電離型質量分析計の特性とその応用
4. ICP 質量分析法による高精度同位体分析の測定原理
5. マルチコレクター ICP 質量分析装置による金属安定同位体分析
6. 加速器質量分析装置の原理
7. 加速器質量分析の応用
8. 小型加速器質量分析装置の進歩と環境・地球化学研究への応用
9. 二次イオン質量分析装置の原理
10. 二次イオン質量分析計を用いた高精度局所同位体比分析手法の開発と応用
11. 精密同位体分析のための標準物質
12. 質量分析を用いた化合物同定における同位体情報の活用

なお『ぶんせき』掲載時から古いものでは 20 年が経過しており、執筆者の所属も含め現在の状況とは異なる内容を含む記事もありますが、『ぶんせき』掲載年を明記することで再録にともなう本文改稿を割愛しました。これらの点については、執筆者および読者の方々にご了承いただきたく、お願い申し上げます。

「分析化学」の掲載料についてのお知らせ

「分析化学」誌では、2020 年 4 月より論文掲載料を以下の計算式にしたがってお支払いいただき、pdf ファイルを進呈することになりました。なお、論文の別刷を希望される場合は、別途別刷頒布料金をお支払いいただくことにより購入することができます。

掲載料金計算式（ P ：印刷ページ数）（単位：円）

会員の場合： $30,000 + 5,000 \times (P - 4)$ （印刷ページ数が 14 ページ以上は一律 80,000 円）

会員外の場合： $40,000 + 5,000 \times (P - 4)$ （印刷ページ数が 14 ページ以上は一律 90,000 円）

* 上記に消費税がかかります。